

会話の 0.2 秒を言語学する

著：水野太貴

単行本：240 ページ

出版社：新潮社

価格：1,760 円（税込）

はじめに

本書は、YouTube チャンネル「ゆる言語学ラジオ」で人気の水野太貴氏による著書です。会話で相手に返事をするまでの 0.2 秒に、私たちの脳内で何が起きているのでしょうか？ 著者は言語学の研究者ではなく、編集者として働いているため、難解な理論も分かりやすく伝えられています。言葉で悩む人への処方箋となる内容が詰まった一冊です。

0.2 秒に隠された会話の奇跡

会話では、一人が話し終えると別の人が話し始めます。この話者の交代を「ターンテイキング」と呼びます。驚くべきことにターンテイキングにかかる時間は平均わずか 0.2 秒です。この短時間で脳は相手の発言を理解し、意図を解釈し、応答を組み立てています。

ウェブサイトやアプリで快適とされる応答時間は 0.4 秒ですが、私たちはその半分の速さでやり取りをしています。世界陸上でウサイン・ボルトが世界新記録を出した際、2 位との差は 0.13 秒でした。私たちは日常会話で、それに匹敵する超高速の情報処理を無意識に行っています。本書を読むと、当たり前だと思っていた会話が、実は奇跡的な営みであることに気づかされます。

なぜ間が空くと不安になるのか

人は 0.4 秒以上待たされると興味を失う傾向があります。応答が 0.6 秒を超えると「気乗りしていない」と判断されやすくなります。間の長さそのものが、相手へのメッセージになっているのです。

「あの一」と「えーと」の違い

「あの一」や「えーと」といったフィラーは、意味のない言葉だと思われがちです。しかし本書によると、これらには明確な役割があります。「えーと」は何を言うか考えている時に出る言葉です。一方「あの一」は、どう

言うか考えている時に出る言葉です。たとえば上司に仕事の進捗を聞かれた際、「えーと」と答えると、忘れていたのかと受け取られる可能性があります。「あの一」であれば、言い方を考えていると伝わります。何気なく発している一言にも、相手への印象を左右する力があることを本書は教えてくれます。普段の会話を少し意識するだけで、コミュニケーションの質は変わるのかもしれない。

沈黙が伝えるメッセージとは

肯定的な応答は平均 35 ミリ秒、否定的な応答は 60 ミリ秒のギャップがあるそうです。わずか 0.025 秒の差ですが、人は無意識にこれを感じ取っています。沈黙は言葉以上に、相手の心理状態を伝えています。部下との面談で沈黙が生まれた時、それは単なる空白ではありません。相手が何を考えているのか、どんな気持ちでいるのかを読み取るヒントになります。沈黙を恐れるのではなく、その意味を考える姿勢が、対話の質を高めることにつながります。

日本語は世界一せっかちな言語？

日本語話者のターンテイキングは、他の言語圏に比べて短い傾向があります。文化的な違いが、会話のテンポにまで影響しているのです。せっかちは、効率的なやり取りを好む日本文化の表れとも言えます。相手を待たせたくないという気づかいが、結果として会話を速くしている面もあるでしょう。

本書は言語学の視点から、私たちが普段使っている日本語の特性を浮き彫りにしています。言語の特性を知ることとは、自分自身のコミュニケーションの癖を知ることにもつながります。部下との対話を振り返る際の、新たな視点を与えてくれる一冊です。